

2000-09年度

連載第1回で取り上げたテーマは「職業研究」「進路だより、進路説明会」。



2010-19年度

17年度からは誌面をカラー化し、学校提供資料を大きく、分かりやすく紹介するなど、情報をさらに充実。



2020-25年度

21年度からは、変革のプロセスをより分かりやすく伝えるため、「変革の背景」「変革の一手」「変革の成果・展望」を柱とした誌面展開に。

指導変革の軌跡 300回記念特別企画

「指導変革の軌跡」が見つめてきた 教師たちの挑戦と情熱

2000年度4月号から連載が始まった「指導変革の軌跡」は、社会の変化と学校の課題に向き合い、よりよい学校づくりにまい進する教師たちの姿を追ったコーナーである。ある読者は、「誌面に登場する教師たちに、同じように学校改革に取り組み、もがく自分を重ね合わせ、その姿から勇気をもらった」と語る。決して簡単ではない学校改革にもがきながら取り組む教師たちがリアルな言葉で改革への思いを語ったからこそ、本コーナーは長く読者に支持されてきたのだろう。また、別の読者は、「本コーナーを読む度に、自分のアンテナを高くし、常に新たな気持ちで教育を考えていこうと思え、刺激をもらった」と語る。本コーナーに登場した学校の取り組みに感銘を受け、その学校を訪問して指導のノウハウやマインドを学んだ経験を持つ読者も少なくない。

連載300回となる今回は、26年間に各年代に掲載した記事とともに振り返る。先人の挑戦と情熱が記された軌跡から、今後の学校改革につながるヒントが見いだせるのではないだろうか。

「生きる力」を組織的に育む学校づくりを中心に紹介

1999年に告示された学習指導要領では、変化の激しい社会に求められる「生きる力」の育成が基本理念として示された。高校現場でも、各教科等の基礎的・基本的な内容の確実な定着と、自分で課題を見つけ、主体的に判断・行動し、問題の解決に取り組む資質・能力などの育成を通じて、「生きる力」を育む取り組みに力を入れるようになった。

本コーナーの連載がスタートした当初は、職業研究や学部・学科研究などの進路指導を通じて生徒に人生を切り拓く力を育むキャリア教育の事例や、学習内容

が精選された学習指導要領の下、学び直しなどを通じて生徒の基礎学力を向上させる事例を多く取り上げた。さらに、そうした取り組みを学年・全校規模で展開するため、組織的な指導体制の構築によって指導の充実を図り、学校の魅力につなげていく動きも本コーナーで取り上げた。2002年度からは「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」事業が始まり、2003年度には「総合的な学習の時間」が高校でも全面実施された。そうした中で、新たな教育活動への挑戦を学校全体のものとしていく教師たちの情熱を本コーナーで伝えた。

お
勧
め
の
分
享

管
理
職

教
務
担
当

進
路
担
当

担
任

探究科の設置をベースに 魅力ある学校づくりを目指す

2001年度12月号 京都府・京都市立堀川高校

探究学習を軸にした魅力化を進めるために、教師が立場や教科の違いを超えて語り合った同校。ぶつかり合いを恐れることなく本音で語り合い、試行錯誤しながら次代が求める新しい学校を模索する様子を伝えた。



現在に至る高校教育改革は同校から始まったと言えるのではないかと。私自身、記事を読んだ後に同校を訪問し、さらに深い感銘を受け、自分の変化にもつなげることができた。（読者）



生徒気質の変化を踏まえて 「ドリカムプラン」の見直しに挑む

2008年度4月号 福岡県立城南高校

生徒主体の進路指導として全国に知られた「ドリカムプラン」。同校の教師たちは「『ドリカム』さえやっていれば何とかかなと、甘えていたのかも」と自戒し、目の前の生徒に合ったキャリア教育の再構築に果敢に挑んだ。



全国の多くの高校がモデルとした進路指導のフレームを、前例踏襲をよしとすることなく改善していく姿に感動を覚え、教師としてのあり方を学んだ。（読者）



小学校段階から始める「学び直し教材」で 生徒の学ぶ意欲が育つ

2009年度9月号 千葉県立姉崎高校

徹底した生徒指導と基礎学力の育成を通じて、学校の活性化と地域からの信頼の向上を達成するまでの過程を描写。妥協を許さない強い意志と、生徒自身に変化や成長を感じさせる細やかな配慮により、学校再生を果たした。



時に徒労感や無力感に苛まれたという教師たちの率直な思いへの共感や、一致団結して改革を成し遂げた同校の教師たちの姿が励みになったという声が多く寄せられた。（編集部）



社会に参画するための資質・能力を育む教師たちの挑戦を追う

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、次代を担う高校生が社会問題を自分ごととして捉え、その解決に参画する1つの契機となった。「生きる力」の育成を目指し、3つの柱で整理された資質・能力を、未来を創造する当事者である高校生に育むため、思考力の育成に資する課題研究、地域などの多様な他者との協働やアクティブ・ラーニング、グローバル教育など、それまでの学校の枠や常識を超えた多彩な教育活動に取り組む教師たちの姿を本コーナーでも紹介した。

また、生徒の志望の多様化を背景に、就職希望者が多

い専門高校などでも4年制大学進学を希望する生徒への支援を充実させる学校が増加した。そうした、進学実績の向上をミッションとした学校改革も多く取り上げた。

2015年頃からは、教科指導や国際理解教育にICTを活用しながら学校改革を進める事例を積極的に紹介。総合学科やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）、スーパーグローバルハイスクール（SGH）などで行われた探究学習が多くの学校に伝播し、高校教育全体のあり方が大きく変わる中、現場の教師たちも新たな挑戦に取り組んだ。

分掌数削減、副担任廃止 組織改編を断行し協働性・同僚性を喚起

2013年度2月号 鳥取県立倉吉東高校

学級減に伴う教員定数の削減への対応として、8分掌を4分掌に改編。当初は分掌間などでの摩擦もあったが、徐々に教師の協働性・同僚性が育まれていった。並行して、新教育課程に対応すべく、アクティブ・ラーニングの導入なども進めた。



「それはこの仕事ではない」など時には衝突もしながら、組織として成熟し、協働性や同僚性を高めていった教師の姿に勇気をもらった。(読者)



質の高い授業をICTで実現し、 生徒を主体的な学びへと導く

2015年度12月号 福岡県立大川樟風高校

生徒のよい行いを認める指導などで、一人ひとりの自尊心を高めた同校。次の一手として、県と粘り強く交渉してICTの整備に挑戦し、授業の質を高めたり、データを活用して指導改善を図ったりしていった、進取の気性を描いた。



ICTに関するミニ研修会の実施や、気軽にICTを取り入れられる方法の校内での共有などを通じて、学校全体で活用を進めた事例。生成AIの活用を模索する現在の学校現場の状況と重なる。(編集部)



全校体制による課題研究で、 生徒の学びを深めさせ、社会への広い視野を育む

2019年度4月号 静岡県立三島北高校

「グローバル人材の育成」を掲げて、スーパーグローバルハイスクールの指定校となった同校。「水」をテーマにした課題研究における問題解決のプロセスを通じて、論理的思考力などの資質・能力を育み、テスト開発や英語力育成にも取り組んだ。



水の専門家を講師として招くなど、外部の力も活用しながら学校全体で取り組む姿勢から、学校教育の可能性を大きく拡張できることを示した事例だと思う。(読者)



想定外の変化に向き合い、よりよい学校を模索し続ける姿を描写

2020年から2025年にかけての日本の高校教育は、新型コロナウイルスの感染拡大への対応と、それによって加速したGIGAスクール構想による1人1台端末を活用した学びの質の転換を迫られた。

学校とはどのような場所なのか、高校生にとって学ぶ意義とは何かという根源的な問いに向き合うことを教師が求められたこの時代、本コーナーでもスクール・ミッションやスクール・ポリシー、さらには特色化を念頭に置いた教育ビジョンなど、自校の教育理念を打ち出し、学校が一体となって変革を進める事例を取り

上げた。教師一人ひとりが自身の力を発揮し、生き生きと働ける環境づくりのための対話型校内研修の実施など、ボトムアップによる学校改革を進める学校にも焦点をあてた。

資質・能力の育成と観点別学習状況の評価の充実、少子化の中での学校の魅力化、生成AIの利活用、そして働き方改革と、現在も高校現場は様々な課題に對峙している。しかし、これまでもそうだったように、学校現場はそうした課題に向き合うことを改革の足がかりにするに違いない。

お
勧
め
の
分
享

管
理
職

教
務
担
当

進
路
担
当

担
任

定期考査や朝課外を廃止し、単元シラバスを軸とした授業改善に挑む

2023年度12月号 鹿児島県立与論高校



観点別学習状況の評価を充実させるべく、定期考査を廃止し、単元シラバスに基づく単元テストを実施。目指す学校の姿を何度も確認することで、教師たちの定期考査の廃止に対する不安を解消し、授業改善を進めた。



定期考査の廃止という、高校では前例の少なかった取り組みを管理職がリーダーシップを発揮して推進。その後、定期考査の廃止の動きは全国の高校に広まった。(編集部)



生徒が主体性を発揮できる学校を目指し、対話的で探究的な教員研修を実施

2024年度6月号 石川県立大聖寺高校



「生徒を主語にした学校」を学校の魅力化の方針に掲げた同校。その実現に向けて、教師同士が対話を通じて学校の課題と解決の方策を考える校内研修を考案。戸惑いながらもその実施に向けて行動した教師たちの姿を描いた。



心理的安全性を担保した上で、教師の対話に生徒も加わり、学校のあり方を協働探究している同校の取り組みは、多くの高校にとって参考になると思う。(読者)

「指導変革の軌跡」を振り返って

全国の高校現場に刻まれた変革の軌跡を四半世紀にわたって紹介してきた本コーナー。それぞれの時代で教師たちは自校の課題に向き合い、掲げた目標に向けて創意工夫を重ね、組織を変え、生徒を育ててきた。そうした299校の事例に共通するのは、困難の中でも、同僚とともに皆の力で学校をよりよくしていこうとする教師の強い思いや情熱だ。ある読者は、「どの学校にも、改革に対して及び腰の教師はいる。そのような教師も仲間として巻き込んでいこうとする事例に特に共感を覚えた」と振り返る。時代は変わり、学校現場が抱える課題もますます多様になっていくことが予想されるが、たとえ自校と課題やテーマは異なっても、教師が変革に立ち向かう姿に励まされる読者は多いはずだ。今後も本コーナーでは、教師たちの創意工夫や挑戦、そして改革への情熱を、熱意と敬意を持って伝えていきたい。



これまでの本コーナーの記事はすべてこちらからご覧いただけます

https://view-next.benesse.jp/view/corner/innovation_tracks/#

